

年間授業計画 様式例

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史科 科目 日本史探究

教科： 地理歴史科 科目： 日本史探究 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 7 組～ 8 組

教科担当者： （7組：関） （8組：関） （組： ） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書： （「詳説日本史」 山川出版社 ）

教科 地理歴史科 の目標：

- 【知識及び技能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義を、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、社会の諸課題解決に向けて構想・説明・議論する力を身につける。
- 【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。また、自国と同様他国の文化を尊重する大切さについての自覚を深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	原始・古代 【知識及び技能】 人類文化の発生を考察し、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 【思考力、判断力、表現力等】 遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。集落・墓の姿から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 原始社会の特色やヤマト政権による国家の形成過程について主体的に資料を活用し探究する。	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権 ・「最新日本史図表2024」「詳説日本史10分間テスト」 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 中国の歴史書の特徴を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交渉の実態を明らかにしようとしている。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
	原始・古代 【知識及び技能】 飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を主体的に考察する。	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開 第5章 院政と武士の躍進 ・「最新日本史図表2024」「詳説日本史10分間テスト」 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 中国王朝との関係に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。地方の諸勢力の成長に着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達について、その特色を理解している。 【思考・判断・表現】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。	○	○	○	27
定期考査			○	○		1	
2 学期	中世 【知識及び技能】 鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古代から中世への変化について考察し、時代を通観する間いを表現する。資料から適切に読み取った情報をもとに、中世の特色についての仮説を表現して展望する。 【学びに向かう力、人間性等】 鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして探究する。	第6章 武家政権の成立 第7章 武家社会の成長 ・指導事項 ・「最新日本史図表2024」「詳説日本史10分間テスト」 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。 【思考・判断・表現】 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用するための時代とのつながりを見出そうとしている。15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○	31
	定期考査			○	○		1
	近世 【知識及び技能】 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。 【学びに向かう力、人間性等】 生類憐みの令として知られる一連の法令から、進んで情報を収集して読み取る。	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 ・「最新日本史図表2024」「詳説日本史10分間テスト」 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 【思考・判断・表現】 織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。新たな支配制度のもとにおける人近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○	37
定期考査			○	○		1	
3 学期	近代 【知識及び技能】 幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃蕩に至るまでの経過を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 近世から近代への変化について考察し、時代を通観する間いを表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 原始古代から近世までの学習内容を主体的に復習する。	第11章 近世から近代へ 近世までの復習 ・「最新日本史図表2024」「詳説日本史10分間テスト」 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 【思考・判断・表現】 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する間いを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 これまでの学習内容について、資料集や問題集を活用して主体的に学習しようとしている。	○	○	○	16
	課題作成・提出			○	○	○	4